

平成20年9月30日公表

平成20年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (長崎県)

【調査結果の概要】

- 1 長崎県における平成20年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む）は1万4,300haで、前年産に比べて300ha（2%）減少しました。
うち、主食用作付見込面積は1万4,300haが見込まれます。
- 2 9月15日現在における水稻の作柄は、10a当たり予想収量485kg（作況指数102）が見込まれます。
- 3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は6万9,400tが見込まれます。

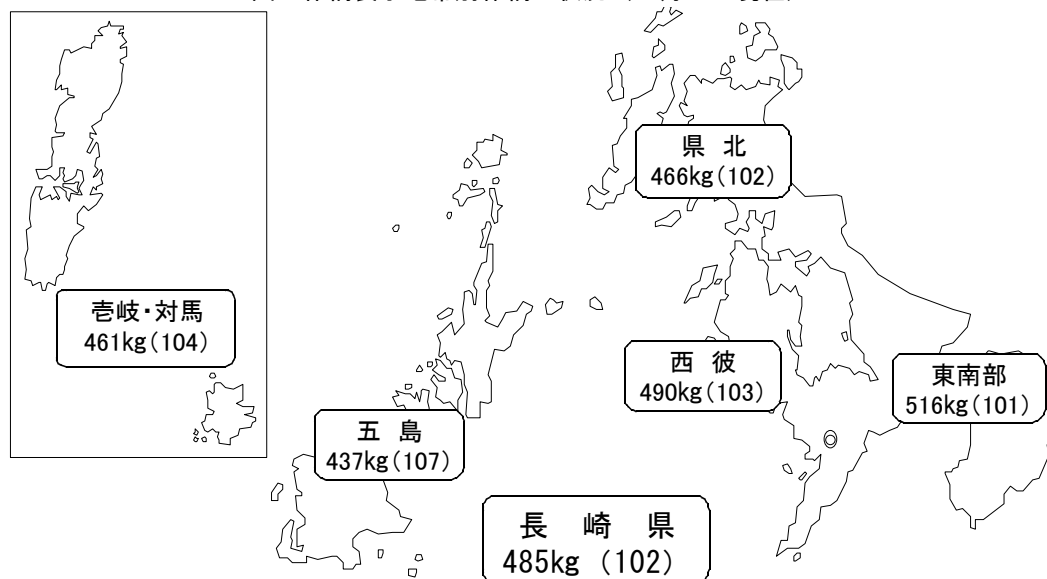
表1 平成20年産水稻作付面積、10a当たり予想収量（9月15日現在）

区分	作付面積 (青刈り面積を含む)	前年産との比較		10a当たり 予想収量	(参考)	
		対差	対比		主食用作付 見込面積	予想収穫量 (主食用)
				①		
長崎県	ha 14 300	ha △ 300	% 98	kg 485	ha 14 300	t 69 400

注：1 青刈りには、稲発酵粗飼料（ホールクロップサイレージ）、わら専用稲等を含む。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む)から、加工用米、新規需要米等の面積を除いた面積（見込み）です。

図 作柄表示地帯別作柄の状況（9月15日現在）



この資料は、以下のアドレスからご覧いただけます。

【<http://www.maff.go.jp/kyusyu/nagasaki/tokei/sokuho/index.html>】

【解説】

1 作付面積

水稻の作付面積（青刈り面積を含む）は1万4,300haで、前年産に比べて300ha（2%）減少しました。これは、生産調整の取組が強化されたことや、生産者の高齢化による労働力不足によるものです。

2 生育状況

（1）出穂期

6月の日照時間が平年を下回って経過したため、生育の遅れがみられました。7月上旬以降は、高温・多照で経過したことから生育は回復したものの、8月下旬の気温が平年を下回って経過したことから、出穂最盛期は平年に比べて1日程度、前年に比べて3日程度それぞれ遅くなりました。

（2）穂数

6月の日照時間が平年を下回って経過したため、分けつが抑制されました。しかし、7月上旬以降は、高温・多照で経過したことから分けつが促進され、穂数は平年よりやや多くなりました。

（3）もみ数

1穂当たりもみ数は、幼穂形成期である7月上旬以降は、高温・多照で経過しましたが、穂数が平年よりやや多いことから、平年並みとなり、全もみ数はやや多くなりました。

（4）登熟（実入り）

早期栽培では、例年見られる台風被害が無かったことにより五島、壱岐・対馬地帯で登熟は良好となりました。

普通栽培では、出穂期にあたる8月中下旬の雨の影響により、不稔もみや変色もみが見られます。また、出穂期以降の天候不順により日照時間が少なく経過していることから、登熟はやや不良が見込まれます。

3 被害状況

虫害は、田植期のスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）や、コブノメイガの食害が散見されました。また、ウンカ、カメムシ等の発生が見られます。

病害は、縞葉枯病、紋枯病、もみ枯細菌病が平年より多く見られます。

気象被害は、普通栽培で、出穂期以降の天候不順により登熟の低下が懸念されます。

以上のことから、10a当たり予想収量485kg（作況指数102）が見込まれます。

表2 平成20年産水稻9月15日現在の作柄概況（作柄表示地帯別）

区 分	10a当たり 予想収量	(参考)		出 穂 期					穂 数 の 多 少	1 も み 数 の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否	刈 取 済 面 積 割 合
		10a当たり 平年収量	作況指数	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の遅速						
							平年 比較	前年 比較					
①	②	③=①/②	月 日	月 日	月 日							%	
県 平 均	485	474	102	7.16	8.26	9.6	1日遅	3日遅	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	16
西 彼	490	476	103	8.15	8.21	8.28	1日遅	2日遅	やや多い	やや多い	多い	不良	1
東 南 部	516	509	101	8.19	8.28	9.6	並み	2日遅	やや多い	少ない	やや少ない	平年並み	1
県 北	466	457	102	7.17	8.26	9.7	2日遅	3日遅	やや多い	やや多い	やや多い	やや不良	23
五 島	437	407	107	7.9	8.17	8.25	1日早	並み	平年並み	やや多い	やや多い	やや良	39
壱 岐・対 馬	461	442	104	7.17	8.19	8.31	1日遅	2日遅	多い	平年並み	やや多い	平年並み	41

注：出穂期の始期、最盛期、終期とは、出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日です。

(作柄表示地帯)

西 彼 地 帯・・・長崎市、西海市、西彼杵郡

東 南 部 地 帯・・・諫早市、大村市、島原市、雲仙市、南島原市

県 北 地 帯・・・佐世保市、平戸市、松浦市、東彼杵郡、北松浦郡

五 島 地 帯・・・五島市、南松浦郡

壱 岐・対 馬 地 帯・・・対馬市、壱岐市

【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稻調査の中の作柄概況調査として実施し、水稻の作付面積、生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査客体数

(1) 作付面積調査

標本単位区：636単位区 巡回・見積り：23市町

(2) 作柄概況調査

作況標本筆：150筆 作況基準筆：23筆 巡回・見積り：23市町

3 調査期日

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 作柄概況調査：9月15日現在

4 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行いました。

(2) 作柄概況調査

調査は、作況標本筆、基準筆に対する職員による実測調査及び巡回・見積りにより行いました。

5 用語の解説

- 青刈りとは、子実の生産以前に刈り取られるもので、稲発酵粗飼料（ホールクロップサイレージ）、わら専用稲等を含みます。
- 「穂数の多少」は、1㎡当たりに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しています。
- 「1穂当たりもみ数の多少」は、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しています。
- 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しています。
- 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しています。
- 上記の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素の平年値との比較で、次のとおりの区分で表したものです。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- 作況指数とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり（予想）収量の比率です。
- 10a 当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a 当たり収量です。

6 利用上の注意

作柄概況調査（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行いました。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

九州農政局 長崎農政事務所 統計部
生産流通消費統計課 生産統計係

電 話：(代表)095(845)6228 内線446
(直通)095(845)6229

◎農林水産統計全般について

九州農政局 長崎農政事務所 統計部
統計企画課 企画・分析係

電 話：(代表)095(845)6228 内線425
(直通)095(845)4217